

スポーツ・サイエンス・インスティテュート (SSI)

I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2018年度大学評価結果総評】(参考)

SSIは、スポーツを科学的・文化的に捉え、最新のスポーツ科学を含む多彩なSSI科目と、所属学部の主催科目による専門学習の融合を図ることによって、高度なスポーツ文化を担う人材の育成という目標達成に向けて着実に施策が実施されている。特に、「競技と学習の両立」を図るSSI生の実態に即した、授業支援システムやWeb掲示板の積極的活用、対象を全競技に広げた新科目設置をはじめとするカリキュラム改革、所属学部におけるSSI生向けガイダンスの実施、アスリートとして幅広いキャリアプランニングを可能にする独自のキャリア教育を実施していることは、高く評価できる。また、アクティブラーニングの導入等、SSI生のための教育方法開発、履修・学習支援の取り組み、高大接続を配慮した科目の設置も評価できる。

一方、学習成果のタイムリーな把握のための「学生による授業改善アンケート」の組織的な活用、卒業保留・留年・休退学や成績状況等の修学状況の把握、カリキュラムツリー・マップにおけるSSI科目と学部主催科目とのカリキュラム上の有機的な連携の見せ方、体育分野専任教員、特にスポーツ健康学部やスポーツ研究センターとの協働関係の促進については、引き続き課題への取り組みが期待される。また、有機的で持続可能なSSIと学部の連携への取り組みも継続課題であるが、その際には、先述のSSI生の修学状況の分析・評価や、SSIと所属学部の兼任で多忙となっているSSI科目担当教員の負担への考慮も必要となろう。

競技への専門的な取り組み、SSI科目、所属学部での専門学習を融合させるSSI独自の人材育成の、学部ごとの成功事例や、詳細な課題分析結果を蓄積することは、SSIの成果を把握し特色を伸ばすための基礎として有益と思われる。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2018年度は対象を全競技に広げた新科目(スポーツ実習)や2020事業の一環としても設置した新科目(オリンピック・パラリンピックを考える)を開講することが出来た。

特に「オリンピック・パラリンピックを考える」は高大接続に配慮した科目でもあり、外部講師としてスポーツ研究センターの所員やスポーツ健康学部の教員に登壇してもらうことで、関連部局との連携を図ることも実現できた。

また各学部で開講している科目とSSI科目との関係性を理解できるよう、カリキュラムマップ・ツリーを更新している。各学部との連携に関しては、SSI参加学部から選出された運営委員と「学生による授業改善アンケート」の集計結果を共有し、SSI生の履修支援についての対策等を検討している。

【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

SSIは学部横断的なインスティテュートとして、アスリート学生たちに、科学と文化としてのスポーツを理解できるような教育課程を編成し、「教養あるアスリート」および「良識ある指導者」の育成において着実に多様な施策が実施されている。学生だけでなく教員も2つの組織体に所属しながら、競技と学習・研究の両立に留まらず、デュアル・キャリアやセカンド・キャリアの教育も視野に入れた全人的な教育が目指されている点は、高く評価できる。また、そのような人材育成に向けた取り組みを実現するため、優秀な競技成績を収めつつ、専門的学業を続ける学生たちにとって、より適切かつ効果的な環境作りに努めている(2018年度の質保証委員会設置、新科目の設置、高大連携・社会貢献への取り組み)。

ただ、①学生へのアンケート(授業改善のもの、4年生向けのもの)の利用、②スポーツ健康学部や各学部との科目配置の関係性・連携の方法、③カリキュラムツリーにおける各学部専門科目とSSI科目との関連性のさらなる明確化といった、継続的に検討が必要な課題点も存在する。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2019年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S  A B

※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

SSIカリキュラムポリシーに基づいて、2015年度にカリキュラム改定を行っており、2018年度第4回運営委員会におい

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

て、各学部の主催科目を SSI 専門科目として公開してもらえるかどうかを議論した。	
<p><b>【2018 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>各学部の主催科目を SSI 専門科目として公開してもらうことについては、運営委員会の中で学部を代表する各委員に呼びかけてはいるが、具体的な成果は報告されていないため、2019 年度は SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえるよう、学部長会議に上程する予定である。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページ URL や掲載冊子名称等。</p> <p>・特になし</p>	
②初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>SSI 生はまず各自が所属する学部での初年次教育に参加しているが、SSI では基礎科目として開講されている 7 つの必修科目や「スポーツ学入門」等が初年次教育としての役割を担っている。</p> <p>また「オリンピック・パラリンピックを考える」については、高大接続として 3 附属高の生徒に公開されている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
③学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>SSI 生は初年度教育同様、各自が所属する学部でのキャリア教育を受けているが、SSI でのキャリア教育科目は「アスリートキャリア論」や「アスリートのキャリアマネジメント」が挙げられる。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・SSI 履修要綱・シラバス</p>	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>SSI 新入生を入学前の 2019 年 3 月 27 日に召集し、ガイダンスを行っている。終了後、一部学部別にガイダンスも行った。</p> <p>また年度当初年度当初に行われる学部ガイダンス終了後に別途時間を設けて SSI 生を対象にガイダンスを行っている学部・学科もある。</p>	
<p><b>【2018 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>SSI ガイダンスの出席要請を体育会各部の部長・監督に対して行い、多数の学生 (170 名) が出席していた。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・新入生の SSI ガイダンスへの参加について (お願い)</p> <p>・SSI ガイダンスの開催について (ご案内)</p>	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>2019 年 3 月 27 日に行った SSI 新入生ガイダンスにおいて、委員長・副委員長が出席し、履修に関する助言や授業への出席を促す等、修学上の注意事項を説明している。</p> <p>SSI の学生は、授業実施日に公式戦が開催されることがあり、授業を欠席せざるを得ないことがある。その際は、大学の公式書類である「競技参加による欠席願」を授業担当教員に提出するよう、SSI ガイダンス及び各学部・学科のオリエンテーション・ガイダンスにおいて指導している。</p> <p>授業担当教員は、当該学生の教育機会を保障するために、授業支援システムを利用した資料配布や課題の設定を行っている。授業支援システムを活用できるようにするために、市ヶ谷・多摩キャンパスで開講されている必修科目 (スポーツ心理学) において、独自の資料を作成して、授業支援システムの使い方を解説している。</p> <p>また運営委員会や FD ミーティングにおいて、成績優秀者の授業への取り組み方等について、意見を出しあい、情報共有もしている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・各授業の授業支援システムのホームページ</p>	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組み概要を記入。</p> <p>授業支援システム（OATube）等を利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業が行われている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各授業の授業支援システムのホームページ</li> </ul>	
④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【具体的な科目名および授業形態・内容等】</b> ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ワールドカフェ」や「クロスロード」等のアクティブラーニングを採用している授業もある。</li> <li>授業支援システム等を利用して、授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業が行われている。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各授業の授業支援システムのホームページ</li> </ul>	
⑤それぞれの授業形態（講義、実習等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <p>授業を公開している科目や必修の授業で、前年度に学部等の必修授業と重なったため、受講者が教室の定員を超える授業があるが、その他の科目に関してはスリム化の対象となりうる過小人数受講者の授業も18年度は1科目のみであった。ただし SSI の学生数の割合からは開講できる総コマ数は多いとは言えないため、2018年度第4回運営委員会において、各学部の主催科目を SSI 専門科目として公開してもらえるかどうかを議論し、学部長会議に要望書を提出すべきとの方向でまとまっている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2018年度第4回運営委員会議事録（18年度達成状況報告書内容の承認事項部分）</li> </ul>	
1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運営委員会において、全学及び SSI の GPCA 平均集計表を配布している。</li> <li>運営委員会やFD ミーティングにおいて、成績評価方法に関する意見交換を行っている。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度第1回運営委員会議事録</li> <li>GPCA 平均集計表（全学と SSI）</li> </ul>	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布の状況を把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p>※データの把握主体・把握方法、データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運営委員会において、全学及び SSI の GPCA 平均集計表を配布している。</li> <li>運営委員会やFD ミーティングにおいて、成績評価方法に関する意見交換を行っている。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度第1回運営委員会議事録</li> <li>GPCA 平均集計表（全学と SSI）</li> </ul>	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>競技に専門的に取り組んでいる SSI 生の特徴を踏まえた学習方法の検討を行った結果、18度より開講された「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」の単位認定方法や受講生が提出する申請書・報告書に反映させた。</li> </ul> <p><b>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2017年度の運営委員会で議論を繰り返して決定した「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」の開講を実現した。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・2017年度第2回・3回・4回運営委員会議事録	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。 卒業を間近に控えた4年生を対象に、「SSI卒業予定者向けアンケート」を実施している。このアンケート内で、SSI主催科目に関するアンケートを行い、各授業の内容に関する具体的な回答を得ている。アンケート結果は執行部で集約し、運営委員会において、運営委員に対してフィードバックを行い、意見交換を行っている。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・2019年度第1回SSI運営委員会議事録 ・SSI卒業予定者向けアンケート集計結果	
1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	
①学習成果を組織的・定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。 2号委員（SSI授業担当教員）を招集し、FDミーティングを開催している。授業での出席状況を把握するための調査方法や授業時間が10分延びたことによる授業実施方法、学習状況が好ましい学生の事例（良好事例）等の意見交換を行っている。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・2018年度第2回・4回運営委員会議事録	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
※利用方法を記入。 ・質保証委員がシラバスチェックを行い、シラバスの「学生の意見からの気づき」や各授業回で、それぞれ内容を記入しているか等をきちんと記入するよう、各教員に促している。	
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。 ・各授業のシラバス	

【この基準の大学評価】

①教育課程・教育内容に関すること (1.1)

学生の能力育成のための教育課程・教育内容については、特に他学部主催科目のSSI専門科目としての公開とその量的拡大が一つの課題となっているが、難しい課題とはいえ毎年度継続的な取り組みが必要である。初年次教育や高大接続への取り組みについては、各学部の初年次教育に加えて、複数の科目が双方の目的に沿って設置・運営されており、評価できる。キャリア教育については、デュアル・キャリアおよびセカンド・キャリアも視野に入れた科目が設置・運営されており、一般学生とは異なる将来への悩みやその解決方法を教授するという効果が期待される。

②教育方法に関すること (1.2)

SSIにおける学生の履修指導については、学部ガイダンスや所属学部別ガイダンスが実施されており、初年次学生に履修上の注意点を丁寧に説明する場を設けている点は、評価できる。学習指導および学習時間の確保については、諸事情により欠席した場合の対応方法や、授業支援システムの有効活用について、学生の状況に応じた指導がなされており、評価できる。とりわけ、欠席した学生や復習したい学生へのOATubeを利用した教育方法については、教育上の目的を達成するための効果的な授業の取り組みとして、高く評価できる。それぞれの授業形態に即した1授業当たりの学生数については、開講可能な総コマ数に制限がある状況の中では、とりわけ他学部主催科目のSSI専門科目としての公開とその量的拡大については、引き続き検討が望まれる。

③学習成果・教育改善に関すること (1.3～1.5)

SSIにおける成績評価と単位認定、そして成績分布の状況の把握については、運営委員会およびFDミーティングにおいてGPCA平均集計表（全学とSSI）や成績評価法に関して情報共有、意見交換が行われている。分野の特性に応じた学習成

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

果を測定するための指標の設定・取り組みについては、「スポーツ実習Ⅰ・Ⅱ」における単位認定方法や申請書・報告書への反映において行われているが、複数の専門的競技に取り組む学生たちに向けたより適切な指標の設定や取り組みのためにも、継続的な努力が望まれる。具体的な学習成果の把握・評価については、卒業間近の学生たちへのアンケートを実施し、その後執行部・運営委員会における意見交換が行われている。学習成果の組織的・定期的検証と教育課程・内容・方法への改善に向けた取り組みについては、主にFDミーティングを通じて情報共有・意見交換が行われているが、どのような形で具体的な改善に繋がっているのかについては、継続的な検討が必要である。「学生による授業改善アンケートの結果」の組織的利用については、質保証委員会のシラバスチェックと教員へのフィードバックを介して行われている。

## 2 教員・教員組織

### 【2018年5月時点の点検・評価】

#### (1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）等内のFD活動は適切に行なわれていますか。 S  A B

#### 【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・全てのSSI主催科目のシラバスを質保証委員（前委員長他）がチェックし、改善すべき点が見つかった場合は、授業担当教員に対して個別に指導を行っている。
- ・2018年度は第2回・第4回運営委員会終了後に、FDミーティングを行い、授業に関する問題点や課題について意見交換を行った。

#### 【2018年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・FDミーティング（7月30日）・BT25階B会議室・出席状況把握について
- ・FDミーティング（19年3月11日）・BT25階B会議室・2018年度授業について（振り返り）

#### 【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・質保証委員会を立ち上げ、執行部ではない委員に質保証委員としてシラバスチェックを行っていただいた。

#### 【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・SSI科目シラバス原稿の手引き
- ・法政大学シラバスWEB入稿システム教員向け入稿ガイド
- ・SSIシラバスに関する疑義・指摘
- ・2018年度第3回・4回運営委員会議事録

#### (2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし。	

#### (3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし。	

### 【この基準の大学評価】

SSIでのFD活動については、主に運営委員会やFDミーティング、さらに質保証委員会など、複数の組織体における情報共有や意見交換を通じて適切に行われている。とりわけ、質保証委員会を設立し、執行部以外の教員がシラバスチェックを行うような体制を整えたことは評価できる。

他方で、このような委員会・ミーティングにおける情報共有・意見交換したものは、該当する教員だけでなく、兼任教員を含めた全教員に向けて公開・提示されていることが望ましい。

## III 2018年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	・SSI質保証委員会を設置し、実効的な内部質保証の仕組みを構築する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	年度目標	・SSI 質保証委員会を設置し、開催する。	
	達成指標	・SSI 質保証委員会を設置し、開催する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	SSI 質保証委員 (2 名) を選出した。質保証委員は、運営委員会後に質保証委員会を開催し、また、シラバスの点検作業も実施した。
		改善策	—
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
2	中期目標	・SSI 専門科目のうち、各学部が主催する科目 (学部主催科目) の数を増やす。	
	年度目標	・各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえよう、各学部働きかける。	
	達成指標	・各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえよう、依頼文書を作成し、学部長会議に上程する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		B	
理由		運営委員会において、各学部から選出されている委員に対して、各学部の主催科目を SSI 専門科目として提供してもらえよう依頼したが、学部長会議への上程は行わなかった。	
改善策		各学部の主催科目を SSI 専門科目として提供してもらうために、どのような施策を行うことが効果的か、運営委員会で引き続き検討したい。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
3	中期目標	・学生アスリート (競技に専門的に取り組んでいる学生) に即した学習方法を検討し、検討した結果を授業担当教員に周知する。	
	年度目標	・学生アスリートに即した学習方法を検討する。	
	達成指標	・2 号委員 (SSI 科目を担当する教員) を招集して FD ミーティング等を開催し、競技に専門的に取り組んでいる学生に即した学習方法を検討する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		A	
理由		FD ミーティングにおいて、アクティブ・ラーニングを積極的に導入している教員による話題提供があった。その後、参加者による意見交換を行った。さらに、授業支援システム等を利用して授業を欠席した学生や復習を行いたい学生に対して、動画を提供する授業を行っている教員からも話題提供があり、同じく参加者間で意見交換を行った。	
改善策		—	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
4	中期目標	1. 学生の競技活動の経験を実践知へと昇華させるための手法を検討する。 2. 各学部内において、SSI 生の学習に関する現状を共有してもらう。	
	年度目標	1 学習状況が好ましい学生アスリートの事例を集積する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する方法を検討する。	
	達成指標	1. FD ミーティング等において、学習状況が好ましい学生アスリートの事例を集積する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する方法を検討する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		A	
理由		運営委員会において、全学および SSI の GPCA 平均集計表を配布して、情報共有を行った。さらに、FD ミーティングにおいては成績評価方法に関する意見交換を行った。	
改善策		—	
No	評価基準	教員・教員組織	
5	中期目標	1. SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 多様な学部にも所属する教員が協同しつつ、安定的に運営することが可能な SSI の教員組織のあり方を探索する。	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

		3. スポーツ研究センターおよびスポーツ健康学部に所属する教員との連携を強化する。
	年度目標	1. SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 専任教員の SSI 主催科目の担当状況を把握する。 3. SSI との連携を促進してもらえよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。 4. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。
	達成指標	1. 運営委員会において、SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定し、改定案を学部長会議に上程する。 2. 運営委員会において、専任教員の SSI 主催科目の担当状況を把握する。 3. SSI との連携を促進するよう、スポーツ研究センター運営委員会執行部に依頼する。 4. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
		自己評価 A
		理由 1. 規程改定については、1 年間を通して慎重に議論して、年度末に改定案を確定した（運営委員会の承認済み）。よって、上程は次年度に見送ったが、実質的な改定作業は完了しているといえる。 2. 専任教員の科目担当状況は、運営委員会での資料配布によって確認された。 3. スポーツ研究センターの執行部と連携し、その結果、SSI 主催科目において、スポーツ研究センター所長が外部講師として登壇した。 4. SSI 主催科目において、スポーツ健康学部の教員が外部講師として登壇した。
		改善策 -
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	1. SSI に乗り入れている各学部や体育会各部との連携を深める。 2. 各学部において、学生を対象としたアンケートの集計結果等を共有してもらおう。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスの充実を図る。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。
	年度目標	1. SSI に乗り入れている各学部が、教授会等において、SSI 運営委員会の報告・審議内容を共有する方策を検討する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する方法を検討する。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスに先進的に取り組んでいる学部の事例を集積し、共有する。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。
	達成指標	1. SSI に乗り入れている各学部が、教授会等において、SSI 運営委員会の報告・審議内容を共有する方策について、1 号委員（各教授会から選出された委員）、執行部、または、学務部の各学部担当から情報を収集する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する方法を検討する。 3. 運営委員会において、SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスに先進的に取り組んでいる学部の事例を集積し、共有する。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する機会を設ける。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
自己評価 A		
理由 1. 運営委員会において、情報を収集した。 2. 運営委員会において、検討を行った。 3. 運営委員会において、文学部の事例を紹介し（資料も配布）、意見交換を行った。 4. 大学スポーツ協会（UNIVAS）の関連事業に関わる中で、カリキュラムを構成する科目群の整理を行った。		
改善策 -		
No	評価基準	社会連携・社会貢献

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

7	中期目標	・関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。	
	年度目標	・関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。	
	達成指標	・執行部が関連部局と連携することで、履修証明プログラムへの参画を検討する。	
	年度末 報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
理由		関連部局との連携により、履修証明プログラムへの2019年度からの参画が決定した。	
改善策	—		
<b>【重点目標】</b>			
・運営委員会において、SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定し、改定案を学部長会議に上程する。			
<b>【年度目標達成状況総括】</b>			
規程改定については、1年間を通して慎重に議論して、年度末に改定案を確定した（運営委員会の承認済み）。よって、上程は次年度に見送ったが、実質的な改定作業は完了しているといえる。また、スポーツ研究センターやスポーツ健康学部、その他関連部局との連携により、全学的な取り組みである履修証明プログラムの開講を決定したり、大学スポーツ協会（UNIVAS）の関連事業の推進に貢献したりすることができた。			

**【2018年度目標の達成状況に関する大学評価】**

<p>他学部主催科目の SSI 専門科目としての公開とその量的拡大については、プロセスとしては一定の達成がなされたが、目標達成には至らなかった。繰り返しとなるが、この点は継続的な検討・取り組みが望まれる。ただし、それ以外の項目についてはプロセスを含めて目標がほぼ達成されている点は評価できる。また、「社会貢献・社会連携」については、「履修証明プログラム」の開講のみならず、スポーツ研究センターやスポーツ健康学部との連携、大学スポーツ協会（UNIVAS）との関連事業の推進など、積極的な取り組みを決定・運営がなされており、高く評価できる。さらなる成果にも期待したい。</p>
--

**IV 2019年度中期目標・年度目標**

No	評価基準	内部質保証
1	中期目標	・SSI 質保証委員会を設置し、実効的な内部質保証の仕組みを構築する。
	年度目標	・18年度に設置された SSI 質保証委員会を開催する。
	達成指標	・SSI 質保証委員会を開催する。
No	評価基準	<b>教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】</b>
2	中期目標	・SSI 専門科目のうち、各学部が主催する科目（学部主催科目）の数を増やす。
	年度目標	・各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえよう、各学部働きかける。
	達成指標	・各学部が主催する科目のうち、SSI カリキュラムポリシーに沿った科目を SSI 専門科目として提供してもらえよう、運営委員会で1号委員を中心に意見交換を行う。
No	評価基準	<b>教育課程・学習成果【教育方法に関すること】</b>
3	中期目標	・学生アスリート（競技に専門的に取り組んでいる学生）に即した学習方法を検討し、検討した結果を授業担当教員に周知する。
	年度目標	・18年度に引き続き、学生アスリートに即した学習方法を検討する。
	達成指標	・FD ミーティングにおいて、2号委員（SSI 科目を担当する教員）で意見交換を行い、競技に専門的に取り組んでいる学生に即した学習方法を検討する。
No	評価基準	<b>教育課程・学習成果【学習成果に関すること】</b>
4	中期目標	1. 学生の競技活動の経験を実践知へと昇華させるための手法を検討する。 2. 各学部内において、SSI 生の学習に関する現状を共有してもらう。
	年度目標	1. 学生アスリートの学習状況を把握する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。
	達成指標	1. FD ミーティング等において、学生アスリートの学習状況を把握する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	1. SSI 運営委員会規程を実態に沿うよう改定する。 2. 多様な学部にも所属する教員が協同しつつ、安定的に運営することが可能な SSI の教員組織のあり方を探索する。 3. スポーツ研究センターおよびスポーツ健康学部にも所属する教員との連携を強化する。
	年度目標	1. 改定が承認された SSI 運営委員会規程を学部長会議に上程する。 2. 専任教員の SSI 主催科目の担当状況を把握する。 3. SSI との連携を促進してもらえよう、スポーツ研究センター運営委員会に依頼する。 4. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。
	達成指標	1. 運営委員会において、改定が承認された SSI 運営委員会規程を学部長会議に上程する。 2. 運営委員会において、専任教員の SSI 主催科目の担当状況を把握する。 3. SSI との連携を促進するよう、スポーツ研究センター運営委員会執行部に依頼する。 4. スポーツ健康学部の教員に、外部講師として授業に登壇してもらえよう依頼する。
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	1. SSI に乗り入れている各学部や体育会各部との連携を深める。 2. 各学部において、学生を対象としたアンケートの集計結果等を共有してもらう。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスの充実を図る。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携して検討する。
	年度目標	1. SSI に乗り入れている各学部が、教授会等において、SSI 運営委員会の報告・審議内容を共有する方策を検討する。 2. 学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 3. SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスに先進的に取り組んでいる学部の事例を集積し、共有する。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 5. SSI 生用ラーニング・サポーター制度を実施する。
	達成指標	1. SSI に乗り入れている各学部が、教授会等において、SSI 運営委員会の報告・審議内容を共有する方策について、1号委員（各教授会から選出された委員）、執行部、または、学務部の各学部担当から情報を収集する。 2. 運営委員会において、学生を対象としたアンケートの集計結果を共有する。 3. 運営委員会において、SSI 生を対象とした新入生オリエンテーションや在校生ガイダンスに先進的に取り組んでいる学部の事例を集積し、共有する。 4. 学生アスリートのキャリア支援の方策について、関係部局と連携する。 5. SSI 生用ラーニング・サポーター制度を実施した結果について検討し、次年度以降の活用可能性について検討する。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	・ 関連部局と連携して、履修証明プログラムへの参画を検討する。
	年度目標	・ 参画が決定した履修証明プログラムの実施・運営をする。
	達成指標	・ 参画が決定した履修証明プログラムの実施・運営をする。
<b>【重点目標】</b> 1. 改定が承認された SSI 運営委員会規程を学部長会議に上程する。 2. 全学的な取り組みである履修証明プログラムの開講を実施する。 3. 授業のスリム化対象外科目をゼロにする。		

**【2019 年度中期・年度目標に関する大学評価】**

それぞれの項目について、概ね適切性と具体性が満たされている。とりわけ、「学生支援」における「SSI 生用ラーニング・サポーター制度」の実施・運営については、多様な学生のニーズに応じた教育の実現の方策として評価できる。ただし、以下の諸点については、継続的により具体的な取り組み内容・方法が検討されることが望まれる。内部質保証を担保する質保証委員会の活動と成果の共有方法、学生へのアンケート（授業改善のもの、4年生向けのもの）の組織的利用、SSI

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

に乗り入れている各学部教授会における SSI 運営委員会の報告・審議内容の共有方法、SSI 生用ラーニング・サポーター制度の活動と成果の共有方法、そして履修証明プログラムの実施・運営と成果の共有方法である。

### 【大学評価総評】

SSI の取り組み全体として、優秀な競技成績を収めつつ、専門的学業を続ける学生たちにとって、より適切かつ効果的な環境作りに継続的に努めている点は評価できる。今年度も「教育課程・学習成果」と「教員・教員組織」のそれぞれの領域において、多様な学部所属するアスリート学生たちへの適切な対応が模索され続けている。さらなる成果に期待したい。

ただ、単年度の課題というよりも、継続的な課題として①学生へのアンケート（授業改善のもの、4年生向けのもの）の利用、②スポーツ健康学や各学部との科目配置の関係性・連携の方法、③カリキュラムツリーにおける各学部専門科目との関連性の検討・改善を進めることが重要と考えられる。その場合、前年度の成果、評価点を検証しつつ具体的な達成目標が設定されることが望まれる。特に③については、学部主催科目にはより具体的に例示したり、体系性だけでなく順次性も視覚化したりするなど、さらなる具体的な改善について記述されることが望まれる。

今後とも、より適切な教育・教員組織に向けた取り組みを実現するためにも、SSI と所属学部との兼務によって極めて多忙な状況の中で、持続可能かつ効果的な体制作りが望まれる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。